

## SDGsへの取り組み

「持続可能で社会に受容されるエネルギーシステム」の実現に向けた当所の取り組みは、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」をはじめとするSDGs(持続可能な開発目標)が指し示す方向と一致するものです。

当所は、国内外の他機関と連携しながら、高度な研究力を活かして技術革新を先導すると同時に、電気事業の課題解決に資する研究成果を確実に創出し、その成果の社会実装を通じて、SDGsの達成に貢献していきます。

また、次ページの環境活動に示すとおり、研究活動に加えて、「環境に配慮した研究所運営」においてもSDGsの達成に貢献する取り組みを継続していきます。

### 当所の研究が貢献するSDGs

 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	 <p>14 海の豊かさ を守ろう</p>	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 <p>15 陸の豊かさ を守ろう</p>	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 <p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	持続可能な生産消費形態を確保する		

## 環境活動

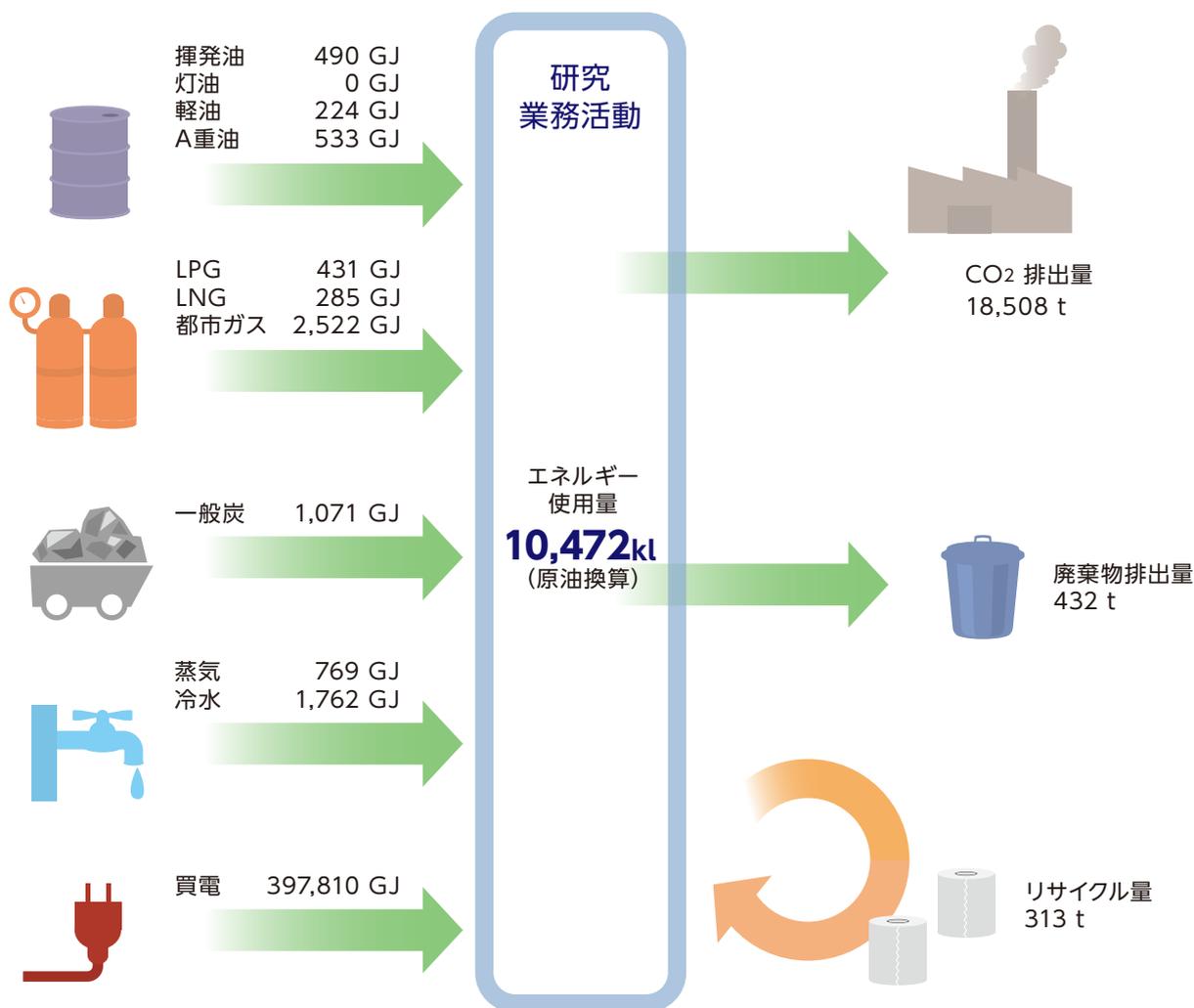
当所は、環境行動指針として、豊かで持続可能な社会の創造を目指し、地域社会はもとより地球規模の環境保全に関する研究開発を推進して成果を社会に役立てるとともに、環境に配慮した研究所運営を経営の重要課題の一つに位置付け、継続的な改善活動を実施しています。

環境行動指針：<https://criepi.denken.or.jp/intro/envact-guidelines.html>

2021年度の当所の環境活動に関するパフォーマンスデータは次のとおりとなっています。

研究所全体のエネルギー使用量は、原油換算10,472kl(前年度比2.8%減)、CO<sub>2</sub>排出量は18,508t(前年度比3.2%減)でした。廃棄物の総排出量は432tと前年度から48.5%減となりました。リサイクル率は72.4%です。引き続き、環境パフォーマンスの改善に努めてまいります。

### [ エネルギーのInput,Output ]



## 環境活動

2021年度に実施した主な環境活動は以下のとおりです。

### 太陽光発電設備の活用

当所では、太陽光発電を活用しており、2021年度の年間発電量は、横須賀地区で約74.7MWh、赤城試験センターでは約11.6MWhとなりました。赤城試験センターでは、研究・試験用として別途設置している太陽光発電設備で発電した電力も有効活用しており、合計で約5.1tの二酸化炭素排出量を削減しました。さらに、我孫子地区でも、2020年に竣工した新本館の屋上に設置した太陽熱集熱パネルを空調用再熱熱源として利用しています。

### 森林保全・整備活動

赤城試験センターは、緑豊かな赤城山の南麓（標高約500m）に位置しています。周辺の森林保全の一環として、2000年から枯松を中心とした樹木を伐採し、コナラ、クヌギ、ヤマザクラなどを植樹して樹種転換を図ってきました。2018年度までに周辺森林保全の活動が概ね終了したことから、2019年度からは、構内環境整備として危険木および倒木を中心に伐採を行い、2021年度は約250本を伐採しました。また、伐採した樹木は破碎機を用いてチップ加工を行い、チップを使用した林道整備を行いました。

我孫子地区でも、既存緑地の適切な保全の観点から、針葉樹を中心に110本程度の樹木伐採を実施しました。加えて、新本館の陸屋根にグリーンルーフを設置するなど、自然との調和を図っています。

### 省資源・省エネへの取り組み

グループウェアの積極的な活用による各種会議体におけるペーパーレス化やコロナ禍を契機としたWeb会議の開催などにより、2020年度において大幅に削減したコピー用紙使用量について、2021年度も同水準の使用量を維持することができました。また、5月から10月をクールビズ期間として定め、軽装による勤務を行うことなどにより冷房使用時の室温を28℃に設定するとともに、年間を通して、労働環境に支障のない範囲で照明の間引きなどを行うことによる節電に取り組んでいます。また、一部の地区では、リアルタイムでの電力消費状況の見える化を行うなどの工夫により、職員等の省エネ意識の向上を図っています。



我孫子地区の太陽熱集熱パネル



赤城試験センターの伐採樹木を利用した  
チップによる林道整備



### 赤城試験センター

- ・2009年から構内2ヶ所をドクターヘリの離発着場として提供し、地域の救急医療行政の推進に協力しており、2021年度においても消防からの要請に対応しました。
- ・2021年7月に、国道353号線周辺の企業などで構成するNPO法人「赤城自然塾」の会員として、国道約2.8kmにわたり歩道の沿道美化活動に協力しました。
- ・参画している主な地域団体、役職：群馬県電気協会 委員  
前橋市防火管理者協会 理事  
赤城自然塾 会員



国道沿道美化活動の様子

### 横須賀地区

- ・2021年度内において、神奈川県立横須賀高校からの要請に応じ、スーパーサイエンスハイスクール講座として、「横高のグラウンドと降水量の関係」「ポリ乳酸の合成と強化」などをテーマに探究活動を行う講座を定期的に開催しました。
- ・参画している主な地域団体、役職：神奈川県労働安全衛生協会 横須賀支部 役員  
横須賀市地球温暖化対策地域協議会 理事(会長)  
神奈川県電気協会横須賀支部 理事(支部長)



スーパーサイエンスハイスクール講座の様子

### 我孫子地区

- ・2021年11月、我孫子地区南側妻子原自治会および並木町7～9丁目合同で開催された防災活動に協力し、各自治会の一時集合場所から緊急避難場所となる当所グラウンドへの避難訓練等を行いました。
- ・2022年1月、セーフティドライバーズちば2021への積極的な協力・推進に対して一般社団法人千葉県安全運転管理協会から会長特別賞を授賞され、また、安全運転管理者協議会の理事職担務、電研橋への安全運転横断幕掲示等、交通安全活動全般への貢献に対する感謝状を我孫子警察署長より授与されました。
- ・参画している主な地域団体、役職：千葉県立現代産業科学館 理事  
柏労働基準協会 理事  
我孫子市国際交流会 理事



近隣自治会の防災訓練の様子

### 粕江地区

- ・地域の消防関係団体や粕江災害防止協会の消防業務への長年にわたる貢献として、2021年11月に、粕江消防署から火災予防業務功労の感謝状が授与されました。
- ・参画している主な地域団体、役職：粕江災害防止協会 副会長・部会長など  
武蔵野・調布地区電力協会 監事

## 新型コロナウイルス感染症への対応・対策

新型コロナウイルス感染症の国内外における感染状況や国の感染症対策等を踏まえ、2020年度より策定している当所の感染防止ガイドラインを、適宜見直しするとともに、ワクチン接種に関する特別休暇の施策展開等を行い、感染防止にかかる最大限の対策を整備し行動しました。在宅勤務制度の全役職員への暫定的な適用や通勤など移動時の自家用車利用などを継続し、出勤に伴う不特定多数の人との接触・接近を低減する措置を講じることや、国外出張の禁止および国内出張の厳選により、役職員の感染リスクの低減を図るとともに、感染が疑われる場合や罹患者発生時の対応フローに則り、所内における感染拡大防止や罹患者およびその家族の心身のケアに努めています。

## 安全意識の向上・災害への備え

事故やヒヤリハットが発生した場合に、速やかに連絡がとれる体制を整えるとともに、発生事例・対応・改善点などに関する情報を役職員で迅速に共有する体制を整え、再発防止を図りました。また、薬品・高圧ガスや放射線などを取り扱う業務の従事者を対象とした各種教育や、救命講習、安全に対する意識向上を図ることを目的とした全役職員を対象とする教育などを、対面形式およびWeb配信形式において実施し、役職員一人ひとりの安全意識の向上に努めました。加えて、地震や火災などの災害にも備え、各地区で自衛消防隊を組織し、消防署の協力を得ながら定期的に訓練を実施しています。さらに、役職員の被災状況を速やかに確認できる安否確認システムを運用しており、すべての役職員を対象とした安否通報訓練も定期的に実施しています。

2021年度の主な講習会の開催実績

講習会の種別	開催回数	参加者数
安 全	3回	約940名
薬品・高圧ガス	2回	約700名
放 射 線	5回	約380名
防災・救命救急	10回	約1,850名



防災訓練の様子(横須賀地区)

## 長時間労働・メンタルヘルス対策

長時間勤務者に対して、労働安全衛生法に則りつつ、法令を上回る基準により医師による面接指導を実施しました。メンタルヘルス対策としては、各地区の健康相談室への常勤看護師の配置、メンター制度やコンディションケア・サービスの活用、希望者に対する外部カウンセラーによるカウンセリングの提供、役職員とその家族が利用できる外部専門機関による支援サービス「メンタルヘルスサポートネット」を用意するなどの対応を行いました。また、定期健康診断やストレスチェックの結果に対し、産業医・看護師が適切にフォローを行いました。これらの対応により、役職員等の心の健康の維持・増進を図るとともに、職場環境の改善に努めました。